

YOUTH ユースサービス SERVICE

若者を考える、若者と考える

若者と支援者をつなぐ機関誌
VOL.
20



動き出す、わたしのワカモノガタリ
ユースシンポジウム2014

若者にしのびよる危険ドラッグ





大人になりたくない若者が大人になって

幸重社会福祉士事務所代表
幸重 忠孝



学生時代から子どもと関わる NPO 活動に没頭し、今もソーシャルワーカーとして地域や学校で子どもや若者に関わる仕事をしています。ソーシャルワーカーという仕事は自己覚知を必要とすることもあり、よく自分の子ども時代や若者時代を振り返ります。自分は学生の時、とにかく大人になることがとてもイヤでした。そのイヤであった内容を分析すると、それは大人になることそのものがイヤだったわけではなく、年齢差によって大人という立場で子どもに対して上から関わること、また子どもからすれば大人との上下関係を意識せざるを得ないこと、その現実に対する反発が自分の「大人になりたくない」という考えを生んでいたのだなと考えています。

そして気がつけば 40 歳を超えたわけですが、今の自分は子どもたちや若者たちからどう見られているのだろうと、ふと思うことはあります。

若者のみなさんは大人になることをどう考えていますか。そしてユースワークに関わる大人のみなさんは若者たちからどのように映っているのでしょうか。

(京都市ユースサービス協会企画委員)

イラスト 厚焼サネ太

14

ユースかわら版
『ひきこもり、不登校の講演会と交流会の開催』ほか

12

TOPICS

伏見センターを拠点に、
世界チャンピオン誕生ほか

10

若者にしのびよる危険ドラッグ

9

ユースワーカー養成講習会、石巻で開催
京都では「若者学」公開研究会

8

ねっとわーく 立命館大学猫の会 RISCat

3

特集 ユースシンポジウム2014
動き出す、わたしのワカモノガタリ

【表紙の花】

ユーフォルビア・
レウコケファラ

トウダイグサ科の常緑低木。原産地は中米。日本ではシラユキヒメという名で親しまれている。細かい灌木で高さは1.5～3.5メートルほど。白く細長い花びらに見えるのは花ではなく苞葉で、茎頂に白い小花を咲かせる。

ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。

家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。



中3生

中卒・高校中退

高校転校

今学校に通えていない方

社会人・主婦

随時相談受付中

高校卒業

- 地域全体を学校と捉えた「コミュニティ共育」地域に出て、様々な体験を行っています。
- 自分に合った学習で卒業を目指す
- 信頼の進路実績

転・編入受付中 今なら同級生に遅れない高校卒業が可能!

選べる2つの 高卒

確実に高卒資格

国が認める高卒認定試験合格を目指します

- 親身なサポート 担任によるアドバイスや相談を受けられるから安心
- 自宅での映像学習で合格を目指す



中卒・高校中退で
社会人・主婦の方

第一学院高等学校 京都キャンパス

通信制高校
(広域通信・単位制)

〒600-8418 京都市下京区烏丸通松原下ル五条烏丸町407-2 TEL 0120-761-080

第一学院高校

検索

www.daiichigakuin.ed.jp

全国62キャンパス
(平成26年4月時点)

第一学院高認予備校 京都校

通学科 通信科

〒600-8418 京都市下京区烏丸通松原下ル五条烏丸町407-2 TEL 0120-936-358

第一学院高認

検索

www.daiichigakuin-kounin.jp

受付時間:
10:00~18:00(日・祝除く)

動き出す、わたしのワカモノガタリ

ユースシンポジウム2014

今年度で15回目を迎えたユースシンポジウム。9月28日(日)、参加者189名、ボランティアスタッフや関係者の方々を含めると200名以上の来場者とともに「対話型」のシンポジウムを開催しました。今号では、ユースシンポジウムの担当ワーカー4名と、フロアラッピングでご協力いただいた CLUB ATTRACTION (ワカモノ)による地域コミュニティ創出事業に取り組む青少年グループ)のマネージャー2名に、それぞれのユースシンポジウムを自由に語っていただきました。

若者が自分の想いを語ることで、新たな意味をお互いに発見したり、対話の中で多様な価値観に触れたり、この場が新たな価値を創造していく、アクションを起こしていくきっかけの場となることを主題に開催しました。

全体会では、4名の若者をパネリストに迎え、参加者が自分にとってのコミュニティを考える場として進められました。セミナーでは、個人ワークや

を切り口に対話できる場を設けました。

参加者からは、「自分自身が考えていることや取り組んでいることを応援してもらった」「思いが似ていることで頑張ろうと思えた」という声が多く、また、出展団体からは「想像以上に幅広い年齢(高校生/社会人)の方が立ち寄ってくださり、悩みから新しい発見など色々なシェア、交流ができました」といったご意見をもらい、お互いに「動き出す」ための刺激を得られる場となりました。

は、個人ワークやグループでの話し合いを通じて、自分自身の働きマイルドを探っていました。参加者がブースを廻りながら個々の想いに触れるトークフリマとフィールプレイスでは、「豊かさ」

「若者が主役になる一日だからこそ、企画段階から若者とともに創りたい」と願い、8名のボランティアと1つの青少年グループが3カ月半、一緒に取り組んでくれました。対話から感じたことを整理できる場を提案したり、自分事のテーマとして真剣に悩んで企画したり、若者当事者の思いや声が活きた企画になりました。また当日の交流会では、よさこい

グループからの申し出で急ぎよ演舞が披露される場面もありました。

司会や受付などを担う当日ボランティアや、出展団体の方々、そしてこの場をいっしょに創りあげてくれた参加者のみなさんに、感謝します。

中京青少年活動センター

ユースワーカー 竹田明子



第1部

全体会

「私にとってのコミュニティ〜見つけよう私にとっての大切な場所(もの)〜」

自分を「モノガタリ」 基盤とは何か

今回のシンポジウムのテーマは「動き出すわたしのワカモノガタリ」。シンポジウムを通し、参加者自身の物語が動き出すことを目標とした。プロローグとなる全体会のテーマを、自分達をモノガタリとする上で欠かせない「コミュニティ」に設定。各登壇者の話を聞く中で、参加者にとつてのコミュニティの基盤とは何かを考える場とした。



[コーディネーター]
 谷 亮治さん(京都市まちづくりアドバイザー)
 [パネリスト]
 村井 彰信さん(山科醍醐こどものひろば 常任理事)
 川上 萌仁香さん(新大宮みんなの基地 2014年度そらたねプロジェクト代表)
 中山 泰輔さん(若者と家族のライフプランを考える会 ピアサポーター)
 後藤 百合絵さん(感動創造塾スタッフ)

「コミュニティ感の違いー良いコミュニティ 仲の良い集団ではない?」

コミュニティを考える中で、メンバー間の関係性は重要である。しかし、仲良くグループ、良いコミュニティというわけではない。「仲の良さばかりに気を取られてしまうと、その関係を崩さないよう発言が制限される恐れがある」と京都市まちづくりアドバイザーでもあるコーディネーターの谷亮治氏は指摘されていた。本当に良いコミュニティとは、仲が良い集団ではなく、他者と折り合いをつけるのがうまい集団なのかも知れない。

私にとって「コミュニティ」は...

コーディネーターは、冒頭で「人は一人でも生きていけるものである」と話されていた。ただし、この後には「豊かに生きていく為には誰かと一緒の方が良い」と続く。人は誰かと物事を共有したときこそ記憶として刻まれ、それが思い出となっていく。つまりコミュニティとは、「自分の人生をより豊かにするために必要なもの」なのである。

もちろん、全員が納得する答えとはならないだろう。しかし、参加者それぞれの問いかけに対し、「応える」ことは出来たのではないだろうか。今回の全体会が、少しでも参加

者のモノガタリを動き出す原動力になったとすれば幸いである。

南青少年活動センターユースワーカー

清水方人

Program		
第1部	全体会 10:00 ~ 12:00	私にとってのコミュニティ 〜見つけよう私にとって 大切な場所(もの)〜
第2部	トークフリマ フィール プレイス 13:00 ~ 16:00	『豊かさ』を切り口にした 対話型・体感型ブース
	参加型 セミナー 13:30 ~ 16:00	若者が語る 私の働きマインド
第3部	交流会 17:00 ~ 18:00	任意参加の交流会



第3部交流会の様子

第2部

トークフリマ、フィールプレイス

22団体が参加

「動き出す、わたしのワカモノガタリ」というテーマで臨んだ今回のユースシンポジウムにおいて、参加者同士が対等な目線で直にお互いの思いを交わすことのできるトークフリマとフィールプレイスは、特別な役割を果たしたと思います。

今回出展していただいた団体は22団体。多様な価値観との出会いを生み出すため、様々なジャンルで活動されている団体のみなさんをお呼びしました。昨年度よりも出展団体の



数としては少なくなりましたが、その分じっくりと話し込むブースも多くみられ、密度の濃い対話や活動の実感を楽しんでもらうことができたのではないかと思います。

トークフリマとフィールプレイスという2つの対話型企画の大きなねらいは、「多様な価値観との出会い」、そして「未来へのつながり」でした。対話を通じて出会う、「豊かさ」の先に見える多様な価値観。その出会いが、来場者にとつても出展者にとつても新たな気づきや発見となるような、そしてその気づきや発見がそれぞれの意識や行動に少しでもつながりをみせるような、そんな「物語のきっかけ」となる場を目指していたのです。

後日、私が声をかけて出展してくれた団体のメンバーに声をかけると、「今度あの団体のイベントに行こうと思います」「話を聞いてくれた人が、私たちの活動を見に来てくれることになりました」と、新たなつながりが生まれたことを報告してくれました。少なくとも、いくつかの物語が重なり、動き始めていたことは確かかなようです。

北青少年活動センターユースワーカー

高橋要



参加型セミナー 「若者が語る私の働きマインド」

講師 橋口昌治さん (立命館大学 専門研究員)

「働く」ということは、誰にとっても大きなテーマの一つでしょう。しかし、考えることは人それぞれ違います。家庭との両立を考える人、起業して自分で自分の仕事を作る会社という組織の中で与えられた役割を全うするかを悩む人、何が自分にむいた仕事なのか分からない人、1人1人固有の悩みや考えを持っていきます。

今回のセミナーでは、「人それぞれ全く違



う」というところを感じてもらいたいと思いましたが。同じ年代でも自分と全く違う「働く」を考えている人がいる。もう少し上の年代の人にはこんな葛藤があるのか。自分も大学生の時にはそんなことを考えていたな。じゃあ自分はなぜ今このことを悩んでいるのだろうか？人の考えを聞くことで自分を知る、そんな体験してもらいたいと思ひ、講師の橋口昌治さんと共に内容を考えました。

そして実際このセミナーでそれができたように思います。

他の参加者の「働く」に関する考え方を聞くことで、まだ「働く」ということを経験していない参加者にとってはアドバイスをもらえる機会になったようです。社会人にとっても「働く」ということについて、今、転機を迎えている参加者などが多く、その気持ちを人に伝えることで整理されたようです。それぞれにとってこのセミナーが良いタイミングだったのではないかと思います。

今回のセミナーが充実したものになったのは、参加者のみなさまとファシリテータのみならず、講師の橋口さん、参加した全ての方が自分の考えを正直に話し、話し手の考えを



受け止める温かい空間を作ってくださいましたから。本当にありがとうございました。

下京青少年活動センター

ユースワーカー 久住 祐香

協力者の声

責任者として、若者として、感じた「豊かさ」が明日から新しい動き出すモノガタリを作り、奏でていく。

私たちは、フロアラッピングをさせていただきました。このような大きな企画に関わったのは初めてで、最初は全くイメージが湧きませんでした。しかし、なんども打ち合わせをさせていただいて、「豊かさ」の木に花を咲かせることができました。

当日は、たくさんの方が協力してくださいました。その中で私自身、様々なお話をすることができました。日々の生活の中で「豊かさ」なんて考えたこともなく、私にとっての「豊かさ」って結局なんやろう？ と、ぼんやりしたままで当日に臨みました。日々の生



活の中で楽しいこと、嬉しいこと、辛いことなど、お話をし、たくさんの人と「豊かさ」を共有でき、自分自身を見直すこともできました。みんなと笑っていられることも「豊かさ」だけでなく、喧嘩すること、怒ることも「豊かさ」なのだ、また違う角度で見ることができました。

CLUB ATTRACTION

マネージャー 谷垣 優花

ユースシンポジウム2014に参加させていただきました。いつも以上に賑わい、真摯に様々な課題に向き合っておられる風景を目にしました。私自身、このユースシンポジウムに参加させていただくのは2回目、毎回、参加者の情熱と熱意に感激、感化され、それぞれに持つておられる教育観や、団体をより良いものにするアドバイスをもらったりと、成長できる場ユースシンポジウムであると感じています。

今回は「豊」をテーマに進めてきました。各団体が、「ワカモノが笑顔になってほしい」という想いがひしひしと伝わり、会場全体が熱気であふれていました。「ワカモノに豊かさを」と誰もが正面から向き合っておられ、



私たちワカモノがその想いを伝播し、より良い未来、環境を作っていかなければならない使命感、責任感を感じた1日でした。

CLUB ATTRACTION

マネージャー 藤永 啓佑

立命館大学猫の会 RitsCat

●ミッション

「人と猫が共存できる社会の実現を目指す」という目標の下、立命館大学衣笠キャンパスに住み着く野良猫の管理、「地域猫活動普及のため」の広報活動を行っています。

●代表者

平岡由己

立命館大学3回生



●設立

昔から、衣笠キャンパスには野良猫が住み着いており、多くの学生や職員が可愛がったり、餌を与えたりしていました。そつした住み良い環境の中で、野良猫たちは繁殖を繰り返し、その数を増やしていきました。しかし、その結果、糞尿などの衛生問題、発情期の鳴き声などの騒音問題が深刻化し、キャンパス内のみならず周辺地域にも被害を及ぼしていきました。これらの問題を解決するべく、2011年の4月に立命館大学のサークルとしてRitsCatが設立されました。

●わたしたちの活動

私たちは、「地域猫活動」という活動の考えに則り、活動の普及に取り組んでいます。「地域猫活動」というのは、殺処分することなく地域における野良猫の問題を解決する手法です。

野良猫を捕獲し、動物病院で不妊・去勢の手術を施します。そして、元の地域に戻し「地域猫」として地域で協力して餌やり、糞処理などの世話をします。猫たちが、「地域猫」となれば、ストレスからの解放や寿命が延びるなどのメリットがあります。「地域猫活動」は、人と猫が共存していくための必要な活動として全国でも広まっています。

RitsCatでは、まず、大学における地域猫活動＝「大学猫活動」の実施をしています。不妊・去勢の手術を施した猫を大学猫として管理し、餌やりや糞処理、その他のあらゆる世話を



毎日行っています。また、「地域猫活動」について多くの人に知ってもらつたために、学外のイベントなどでの活動紹介の展示も行っています。今後は、ブログやSNSを利用した広報にも力を入れて取り組んでいきます。他にも、活動資金を稼ぐためにフリーマーケットで手作り猫雑貨の販売をしたり、活動に関する理解をより深めていくため、定期的に勉強会を開催したりしています。

現在は、京都の動物愛護や地域猫活動関連の学生団体による連盟「KASP」にも所属しています。KASPでは、京都市の協力を受け、動物愛護や地域猫活動に関わる勉強会の開催やイベントの企画、参加を行っています。来年には、「京都市動物愛護センター」が開設されることもあり、京都市におけるこれらの活動の機運も高まっている状況です。これからも、人と猫が共存できる社会を目指して、RitsCatは一所懸命がんばります。



✕ール ritscat.meow@gmail.com

URL <https://www.facebook.com/Ritscat>

YW 養成講習会、石巻で開催 京都では「若者学」公開研究会

若者をめぐる多くの社会問題や課題が山積の中、京都市ユースサービス協会では毎年、ユースワーカー養成講習会を実施していますが、今年は8月に宮城県石巻市で出張養成講習会を開きました。

8月30日に京都市中京青少年活動センターにおいて社会活動家でも知られる湯浅誠・法政大学教授のゲストスピーチを得て、ユースワーカー養成公開研究会を実施しました。

ユースワーカー養成講習会@石巻

東日本大震災から4年目。着実に復興に向けての動きが進みつつも、現地には様々な課題が存在しています。昨年、宮城県石巻市で中高生年代の若者に向けて、学習・居場所支援に取り組んでいるNPO法人TEDICと縁あって、ユースサービスが一般的ではない東北地方における若者支援に関わる課題を聴く機会がありました。その課題をどのように乗り越えていくかをともに考えた結果、8月26、27日の2日間、TEDICスタッフ13名を対象にした「ユースワーカー養成講習会@石巻」に当協会から職員3名を講師として派遣しました。

プログラムは、ユースワークの概論に始まり、「ワーカーとしての自己理解」「グループワークの実際」等のテーマで、講義とワーク

シヨップを交えて実施。参加者は

「他者理解のために、まず自己理解」「思い込みに気づけた」「違いがあるからこそ、受け止めることが大事」「伝えたいことと、実際に伝わっていることは違う」「同じものを共有することが大切」など、他者とのかわりにつながる多くの気づきを得られたようです。

今回は、スタッフ研修として実施されましたが、担当者とは今後の宮城県・石巻市におけるユースサービスについても話しており、今後の展開について、当協会にも考えていけたらと思います。
(子ども・若者支援室 チーフ 支援コーディネーター 竹久輝頭)

若者の仕事を巡る現実と、これからの働き方・生き方を考える
会・湯浅誠さんを招いて

若者の問題というけれど、個々の若者の問題だけ見ていけば良いのか？ 社会が変わるようにしな



湯浅誠教授

ければならないんじゃないだろうか？ そんなことを考えた時に、湯浅さんの書かれたコラムを見つめました。彼もそこで、まさに同じような考えをしていると感じて、お招きして話を伺うことにしました。

たくさんのお話をしていただきましたが、一つの柱は、新しい働き方の模索という話。「非正規化」が進むけれど、高度経済成長に戻ることができないし、ロボットでも出来る仕事はどんどん機械化されるという時代において、人間らしい仕事をしながらちゃんと生きていける仕組み作りをしましょう！ という提案をされました。一つの提案は、ソーシャルフロンティア、「誰かの役に立つ」という「ソーシヤルな」領域に乗りだして働こう、ということ。そのほか、「何が「ちゃんとした仕事」か、なんて将来分らないんだか

ら、普遍的な力を身につけておこう！」とも話されました。

若者という切り口から、今の社会を見てみるとどうなるのか？ そうやって捉えられた社会イメージを基盤として、若者の生きやすい社会づくりを考えていこう、というのが「若者学（ユース・スタディーズ）」のねらいとところです。今回のプログラムでは、若者支援における大きな課題である「就労支援」の根本を考えることにつながったのでは？ と考えています。

ところで、右にある素敵な絵は、ファシリテーション・グラフィックという手法で、湯浅さんの話を同時通訳するかのよう描いていただいたものです。作者は京都教育大院生の石橋さん。絵を見るように湯浅さんのお話を読んでみてください。

(京都市ユースサービス協会

事業部長 水野篤夫)



若者にししのびよる危険ドラッグ

薬物乱用で事故続発！ にわか危険ドラッグが注目され京都でも官民一体の包囲網が積極的に活動しています。これまで主流だった大人世代の大麻や覚せい剤と異なり、さまざまな形状で安価に入手できるドラッグは、若者層に広がっています。京都の大学などでも学生たちが独自に予防・啓発活動に取り組んでいます。

東山青少年活動センター チーフユースワーカー 宮川知子

京都外国語大学「ドラスタ」、活動中!!

京都外国語大学では、学生主導で取り組んでいます。2012年1月、学生有志で、「薬物乱用防止学生委員会」が発足、学内に啓発室を設置。京都府警や地域団体と連携しながら防止啓発イベントの実施や学内・街頭でのチラシ配布、高校生を対象とした講習などを行っています。

「学生からの意見、企画はできる限りバックアップしていきたい。特に、大学での春休み・夏休みは、期間が長くいろんな人と出会い接する機会が多くなる。そんな中、知らず知らずのうちに魔の手が忍び寄る恐れが多分にある。薬物を所持・使用す

るなど勝手なことができない環境を作ること、薬物乱用防止を継続して呼びかけていくことが大切」と学生部の稲田雅弘学生課長は語っています。



府内の大学（現在35校、学生リーダー313人）で薬物追放に取り組む組織「ドラスタ京都」を結成。活動の輪を広げています。

危険ドラッグの正体

これまで「脱法ドラッグ」と称して液状、粉末、固形、吸飲ものなどの形で「脱法ハーブ」「アロマオイル」「バスソルト」「お香」として販売されていました。これらは麻薬や覚せい剤と類似の物質を含んでいます。使用すると幻覚や意識障害、呼吸停止などから事故を引き起こしたり、死にいたったりすることがあります。

今年4月に薬事法の一部が改正され、指定薬物の所持、使用、購入、譲渡が新たに禁止されました。違反すると、3年以下の懲役か、300万円以下の罰金、または併科されます。京都府では12月府議会に規制条例を提案する予定です。

京都ダルク（薬物依存症からの回復へ）

危険ドラッグ使用の事故が続発して社会問題化、京都ダルク（出原和宏・太田実男施設長）への相談が増えてきました。京都市伏見区深草西浦町にある京都ダルクは覚せい剤、大麻、危険ドラッグ、処方薬など多量の薬物依存者や家族の相談、依存症からの回復に向けてのセルフヘルプミーティング、リハビリプログラムを続けています。昨年7月から京都府薬務課との協働で「きよ

う」薬物をやめたい人のホットライン」専用電話（075-644-7184）を所内に開設、依存症からの回復した経験のある相談員が対応して効果をあげています。区内には入寮施設（3カ所）もあります。スタッフの笠嶋敏さんは「以前は覚せい剤の依存症者が多かったのですが、1年ほど前から相談も来所者も20〜30代の危険ドラッグの利用者が急増しています」と話しています。

京都マック（社会復帰を目指す）

薬物など、さまざまな依存症（アルコール、ギャンブル、摂食障害など）の人たちの社会復帰を目指すNPO法人京都マック（京都市下京区大宮通七条上ル）には、約20人の仲間がトレーニングを兼ね訪れています。辻井秀治所長は「初めから積極的にドラッグを求めていた者は少ない。金銭面

や使用方法などの手軽さから若者の間で広がってきたようです。根源は、若者たちの人間関係における希薄さでしょう」と語っています。危険ドラッグと繋がる以前に、若者が家族や友人らとの親密で健全な人間関係の構築が急務なようです。



薬物使用の「引き金」

- ・外的な引き金
 - ・1人で家にいる時
 - ・クスリ仲間という時
 - ・酒を飲んだ時
 - ・給料日の後
 - ・繁華街に行った時
- ・内的な引き金
 - ・不安
 - ・怒り
 - ・疲れ
 - ・悲しさ
 - ・欲求不満

（厚労省 脱薬物支援プログラムより）

京都市

「ダメ。ゼツタイ」——京都市保健福祉局生活衛生課では、危険ドラッグ防止のポスター、チラシなどで地域の各種団体、学校などに薬物乱用の根絶を訴えています。各区の「ふれあいまつり」などにも出掛けて啓発活動、またJR京都駅前や繁華街で街頭キャンペーンをしています。学生のま

原隆薬務係長は「なんとといっても薬物乱用の予防です。小学校から大学まで啓発資料を用意して防止活動を徹底しています。来年3月には、薬物乱用防止指導員や学生啓発リーダーらを対象に研修会もします。講師派遣は生活衛生課へ（担当：柳澤佑加子）。市こころの健康増進センターでは薬物依存症の相談も受けています。

京都府

京都府内でも危険ドラッグをはじめとする薬物事犯が後を絶たず、憂慮すべき状況が続いています。このため、京都府では、行政やPTA、青少年団体、業界団体等151団体から構成する「きょうと薬物乱用防止行動府民会議」を核に、オール京都体制で薬物乱用未然防止対策を推進するとともに、京都府警や近畿厚生局とも連携し、危険ド

ラッグ販売店の徹底的な監視、取締を実施しています。また、現在、危険ドラッグ取締のため、条例の制定作業を進めるなど、府から危険ドラッグを一掃するための取組みを進めています。府薬務課の細井允貴担当技師は、相談窓口を設置した府内各保健所や中学校などをまわって講演・指導業務に力を入れています。



伏見勢を拠点に 世界チャンピオン誕生!!

伏見青少年活動センター
チーフユースワーカー 表 美由紀

7月にポルトガルで開催された「ダンスワールドカップ2014」のタップダンスデュオ・トリオ部門で金メダルを獲得した、姉妹デュオの「華～puspa プシュパ～」。

浄華さん(姉)は4歳、優華さん(妹)は3歳からジャズダンサー吉田千佳子氏に師事。DANCE OFFICE ONEに通い、様々なジャンルのダンスを学びました。2002年に結成し、地域のイベントなどに出ることから始め、他のイベントに呼ばれるなど、人に観てもらえる機会が徐々に増えてくる中、浄華さんが中学時代の文化祭のダンス練習がきっかけで伏見青少年活動センターを知り、優華さんが中学生に



なってからは2人の練習で利用するようになりました。地元という安心感やいろんな人との出会いが広がる場所として今後も日々利用されています。

そんな2人の近況を聞くと、受賞後はワールドチャンピオンという肩書きを背負ってイベントに出ることで良い意味で自分たちに自信が持てるようになったそうです。受賞した大会自体はまだマイナーな大会ですが、世界一というネームバリューは大きく「もっと努力し続けないと」「堂々としていないと」とより強く思うようになったとも。

今後の目標は、「自分の表現したい世界観を持っているテクニックでどこまで表現できるか、表現の幅を広げ、オリジナルのジャンルを確立したい。ダンスというコミュニケーションを通して、観てくれた人たちに感動を与えることができるダンサーになりたい」と笑顔で話してくれました。

10月に東京で開催されたタップソロバトル「TAPJACK」にて浄華さんが優勝し初代チャンピオンになりました!

野菜づくりをしながら自分づくり。

北青少年活動センター チーフユースワーカー 大熊 晋

サポートステーション連携の職業ふれあい事業『野菜づくりから仕事に近づく～働きながら、働くことを学ぶ15週間～』が7月末から始まりました。週3回の農作業(左京区岩倉/約200坪)と月1回程度の研修(コミュニケーションについて考えるグループワーク、調理実習など)で構成。草刈りから始め、畝づくり、種まき、育苗、害虫駆除、水やり、収穫、販売までの一連の作業をすべて体験し、「働く実感や達成感を得る」「規則正しい生活リズムを身につける」「チャレンジ精神を養う」ことを目指しており、今期で3期目となります。スタート時は3名だった参加者



も徐々に増え、最終的には22歳～39歳までの男女7名で冬野菜(白菜、大根、赤カブ、菊菜など)を無農薬で化学肥料を使わずに育てました。最初の1カ月は天候

不順のため、毎日が水切り作業の連続でしたが、粘り強く頑張りました。お互いにどのように接するか手探りの部分もありましたが、時間を重ねるうちに、協力し合うことができたり、作業の合間に雑談したりする場面が見られるようになりました。途中、いろいろとアイデアを出して話し合い、納得できる方法(合意形成)を考えて進めてきたことで、「人前で話すのが苦手」「自分の意見を言う自信がない」と言っていた参加者も、前向きに発言するようになりました。

自分たちが育てた野菜を「おいしかったよ」「次も楽しみにしています」と言ってくれたことで、この数カ月間の苦勞を思い出すと同時に充実感や達成感を味わいました。



ご寄付いただきました。

さる9月21日、京都市南青少年活動センターへ同育成委員会委員長 松井憲昭さんが、現金8万円と図書券(1万5千円)を寄付されました。センターでは、「未来の匠・応援!プロジェクト(仮称)」および、ロビー図書の充実に活用させていただきます。

今年の3月から10月にかけて、様々な個人・団体の方からのご寄付がありました。特に、下京青少年活動センターで実施しているバレーボールのリーグ戦「Sリーグ」からは25チームからご寄付をいただきました。改めてお礼を申し上げますと共に、協会や青少年活動センターの事業に活用させていただきます。

- | | |
|--------------------------|--|
| 遠藤 保子 様 | Sリーグ 紫野フレンズ様▽Anncle 様▽エピソード様▽ラブリーズ様▽マーメイド様▽KEWPIE 様▽Mix 様▽コスモス様▽A's 様▽cherry 様▽ハーブ'88 様▽トリッキー様▽七条幼稚園様▽クローバー様▽えいていーず様▽スマイル様▽レモンクラブ様▽あかねクラブ様▽一球会様▽キオーラ様▽飛翔様▽リパティ様▽ |
| 牛田 順子 様 | ENDEAVOR 様▽WAVE 様▽とーきーず様 |
| 和田 寛治 様 | しもせいチャレンジ☆キッズ参加の皆様 |
| LIVE KIDS vol.24 来場者の皆様 | 龍谷大学附属平安高等学校 様 |
| LIVE KIDS vol.24 スタッフの皆様 | |

ユースから版

事業案内

サンタになろう♪ ～サンタクローズプロジェクト2014～

北青少年活動センターでは、ボランティアがサンタクローズやトナカイに扮して地域の子もたちにプレゼントと夢を届ける地域密着型ボランティア「サンタになろう♪～サンタクローズプロジェクト2014～」の準備を進めています。まもなく地域の施設への事前訪問が始まり、本番のクリスマスに向けてボランティアの意欲も高まっています。毎年好評をいただいているこのプロジェクト。今年も多くの子どもたちの笑顔が見られるよう、最後まで頑張ります！

講演会と交流会を開催！！ 「ひきこもり・不登校～つながるまでにできること～」

講演会とNPO等民間団体との交流会を、ウィングス京都イベントホールと中京青少年活動センター大会議室で開催します。講師には、立命館大学の春日井敏之教授を招き、ひきこもりや不登校の若者に対する理解と接し方を中心にお話いただきます。

交流会では、若者の社会参加を支援している団体による活動紹介を通じ、参加者と参加団体がつながりを持つ機会になることを願っています。ひきこもり・不登校に悩むご本人やそのご家族、支援者や関心をお持ちの方々、「つながること」への第一歩を始めましょう。

■日時：平成26年12月7日(日) 13:00～17:00 (受付12:30～)
■申込・問合わせ：京都市ユースサービス協会 子ども・若者支援室
075-708-5430 (参加無料)

事業レポート

「しもせいフェスタ2014」を開催しました！

10月4日(土) 下京青少年活動センターと七条通周辺で「しもせいフェスタ」を開催しました。協賛いただいた地元商店街を会場にして、若い男女の出会い企画「恋フェス」や「謎解きゲーム」、YouTubeで1万回再生「踊る!! 七条の商店街」の第2弾を撮影しました。400mの商店街の歩道にお店の方もみんなが揃って踊りました。ぜひご覧ください。また、館内ではダブルダッチや京都のアイドル、地元で活躍するバンドなど、若者のエネルギー溢れるステージで賑わいました。2,044人という多数の来場があり、地域の方々や若い世代にセンターや七条通をもっと知ってもらえるよい機会となりました。



陶芸ワークショップ 「お茶を楽しむうつわをつくろう」

9月の東山青少年活動センターでは、全4回で陶芸ワークショップを開催しました。一般的な体験は成形で終わりますが、その後の削りや釉薬掛けまでの工程を参加者全員で行いました。「お茶を楽しむうつわ」をキーワードにそれぞれ思い思いのコップやお皿ができました。色を決める釉薬では、意外にも渋い茶色のグラデーションが出る「天目(てんもく)」が人気でした。最後は互いの作品を見合いながら秋を感じるお茶会を楽しみました♪



はじまるさろんを開催しました！

9月13日(土)、伏見青少年活動センターでは、地域若者サポーターの息子さんとひきこもりを経験された30代の男性をゲストに迎えて、「はじまるさろん」を実施しました。

ゲストスピーチでは、お母さんも一緒に座っていただき、それぞれの当時の思いを語っていただく中で改めて気づきあう点も多く、もっと早く気付いていれば、という声も聞かれました。その後のグループ討議では、参加者の方からも自身に関する事例の紹介や悩みを語っていただくとともに、ゲストの話を交えながら全員で考える時間となりました。



第50回フリーマーケット in みなみ

9月21日(日)、通算50回目となる「フリーマーケット in みなみ」を南青少年活動センターにて開催。今回、近隣店舗の皆様にも協力いただき、軽食コーナーでのコラボ販売(協力:坂ノ途中 soilさん)や抽選会など50回記念特別企画を実施しました。普段センターを利用されているダンスチームなどのパフォーマンスもあり、近隣住民の方を中心に多くの来場者で賑わいました。

JAZZ HIP HOP を実施しています！

中京青少年活動センターでは、10月から新プログラム「JAZZ HIP HOP」を実施しています。大塚晶子さんを講師に迎え、HIP HOPにJAZZの要素を加えたダンスに高校生から20代後半までの方が挑戦しました。毎回楽しいレッスンで汗を流していました。



生から20代後半までの方が挑戦しました。毎回楽しいレッスンで汗を流していました。

やませいあえるフェスタを開催しました！

11月9日(日)、山科青少年活動センター周辺地域で児童館、福祉センター、商店会などの施設や団体が同じ日にイベントを開く「第13回ぐるっとふれあいまちフェスタ」が開催されました。「やませいあえるフェスタ」では、青少年や地域団体による模擬店やこどもの遊びコーナー、活動紹介で終始盛り上がりを見せ、雨天にも関わらず延べ500人の来場がありました。まつりの運営へ中高生の積極的な参加と、その活躍を支える大学生ボランティアの姿がとても印象的でした。



読者の声

毎号拝見しています。個人的に不登校ひきこもりのサポートをするNPOで活動している人間ですので、すごく興味を持って読ませていただいています。特にねっとわーくのページで団体の紹介を読みながら、いろいろな団体さんのことを知る機会になってありがたいです。分野が違うとなかなか情報が入らないので助かっています。

京都教育サポートセンター
南山勝宣

7つの青少年活動センター

東山青少年活動センター

住 所：〒605-0862 京都市東山区
清水5丁目130-6 東山区総合庁舎2階
TEL：075-541-0619
FAX：075-541-0628
URL：http://www.ys-kyoto.org/higashiyama/

南青少年活動センター

住 所：〒601-8441
京都市南区西九条南田町72
TEL：075-671-0356
FAX：075-671-0360
URL：http://www.ys-kyoto.org/minami/

北青少年活動センター

住 所：〒603-8165 京都市北区紫野
西御所田町56 北区総合庁舎西庁舎3階
TEL：075-451-6700
FAX：075-451-6702
URL：http://www.ys-kyoto.org/kita/

山科青少年活動センター

住 所：〒607-8086
京都市山科区竹鼻四丁野町42
TEL：075-593-4911
FAX：075-593-4916
URL：http://www.ys-kyoto.org/yamashina/

伏見青少年活動センター

住 所：〒612-8062 京都市伏見区
鷹匠町39-2 伏見区総合庁舎4階
TEL：075-611-4910
FAX：075-604-4910
URL：http://www.ys-kyoto.org/fushimi/

中京青少年活動センター

住 所：〒604-8147 京都市中京区東洞院通
六角下ル御射山町262
TEL：075-231-0640
FAX：075-231-1231
URL：http://www.ys-kyoto.org/nakagyo/

下京青少年活動センター

住 所：〒600-8871
京都市下京区西七条北東野町90
TEL：075-314-5636
FAX：075-314-5640
URL：http://www.ys-kyoto.org/shimogyo/

開館時間 平日：午前10時～午後9時
日祝：午前10時～午後6時

休館日 水曜日・年末年始
(12/29～1/3)

本誌「ユースサービス」の掲載広告を募集します！

当協会編集制作刊行の情報誌「ユースサービス」は、若者とともに若者の現状や未来を考える媒体として、好評を得ています。本誌を通して、企業・団体の広告宣伝活動にご活用いただけます。

発行部数…3,000部(年間3回発行)

配布先…京都市内すべての中、高、大学校、京都府内の大学、関係する行政機関、厚生労働省、内閣府など中央省庁、全国の地域若者サポートステーション、NPO法人・民間団体ほか

〈広告掲載料金 オールカラー掲載〉

全1ページ(縦25.6センチ×横20.9センチ)	5万円
横1/2ページ(縦12.8センチ×横20.9センチ)	3万円
記事下1/4ページ(縦6.4センチ×横20.9センチ)	2万円

広告掲載のお問い合わせ、お申込みは、
京都市ユースサービス協会事務局担当:岡本(電話075-213-3681、Fax075-231-1231)まで。
次回、4月1日付発行の21号への広告掲載申込は12月末日までをお願いします。

発行
公益財団法人
京都市ユースサービス協会

〒604-8147
京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262
京都市中京青少年活動センター内
tel：075-213-3681
fax：075-231-1231
E-mail：office@ys-kyoto.org
HP：http://www.ys-kyoto.org

印刷：株式会社谷印刷所
デザイン：自然堂株式会社



Catch Your Dream

夢をかなえる学校がある!

— 普通科目とコース専門科目（希望者のみ）の履修で高校卒業資格を取得

選べる4つの登校スタイル

Schooling×Style

- クラス制** たくさんの友達と接しながら学ぶ。
 - フレックス制** 自分で登校する時間帯を選ぶ。大学感覚で学ぶ。
 - 土曜日選択制** 指定の土曜日に登校。少人数の塾感覚で学ぶ。
 - 夏冬集中受講制** 夏休みと冬休みなどに集中して授業出席して学ぶ。
- ※それぞれの登校スタイルは途中変更が可能です。



選べる16の専門コース

Special×Course

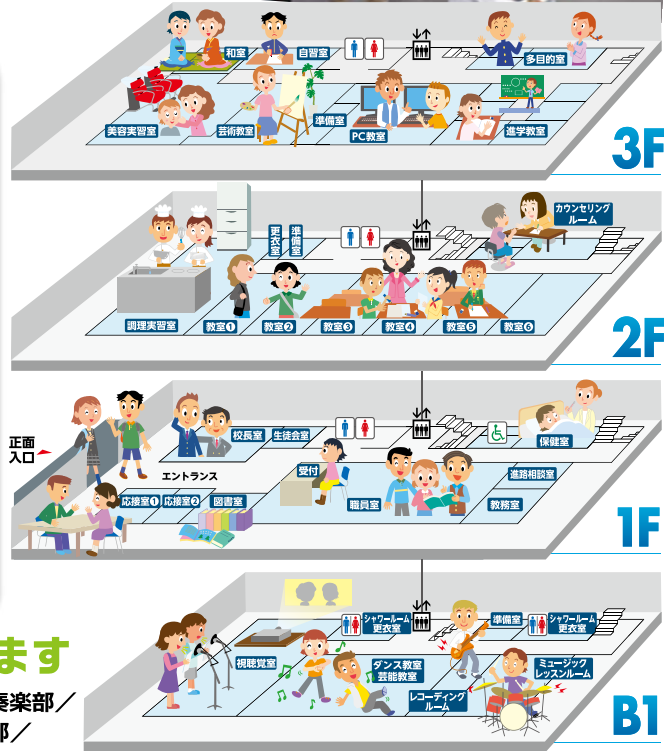
- 進学
 - 調理・製菓
 - 声優
 - IT
 - 理容師・美容師（国家資格取得）
 - 動物
 - スポーツ
 - 外国語
 - NEW ●心理・教育 NEW ●保育
 - ダンス
 - 美容
 - ミュージック
 - 芸術
 - 芸能
 - ファッション
 - NEW ●保育
- NEW...平成27年新規開講

※希望者のみ選択できます。 ※専門コースは毎年変更できます。
※卒業単位に20単位まで認定できます。

盛んなクラブ活動が高校生活を彩ります

マンガ研究部 / 料理部 / 写真部 / ASG部 / 演劇部 / 茶道部 / 吹奏楽部 / 軽音部 / 声劇部 / 手芸部 / 健康増進部 / Duel Masters部 / 天文部 / テニス部 / 卓球部 / バスケットボール部 / フットサル部 / 総合運動部

生徒会・保護者会・同窓会・いちの和会（後援会）が連携して、在校生の活動を支援しています。



平成25年4月新校舎完成

私たちは青少年育成を応援しています!



広域通信制・単位制・普通科

つくば開成高等学校 京都校

転入学や編入学は、随時受付します。 <http://tkaisei-kyoto.jp/> つくば開成 京都 検索

〒600-8320 京都市下京区西洞院通七条上る福本町406番
TEL:075-371-0020 FAX:075-371-0021

◆JR・地下鉄烏丸線「京都駅」より北西へ徒歩8分 ◆京阪「七条駅」より西へ徒歩16分

